

# Asia Indicators

発表日: 2024 年 4 月 12 日 (金)

## 台湾の輸出は底入れの動きを強める展開 (Asia Weekly(4/8~4/12))

～地震前については輸出の底入れが続いている様子が確認されている～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/8(月)	(マレーシア) 2 月鉱工業生産(前年比)	+3.1%	+1.5%	+4.3%
	(フィリピン) 金融政策金利(翌日物借入金利)	6.50%	6.50%	6.50%
4/9(火)	(台湾) 3 月消費者物価(前年比)	+2.14%	+2.51%	+3.08%
4/10(水)	(ニュージーランド) 金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.50%	5.50%
	(タイ) 金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.50%	2.50%
	(台湾) 3 月輸出(前年比)	+18.9%	+8.5%	+1.3%
	3 月輸入(前年比)	+7.1%	▲2.4%	▲17.8%
4/11(木)	(フィリピン) 2 月輸出(前年比)	+15.7%	--	+9.2%
	2 月輸入(前年比)	+6.3%	--	▲6.1%
	(中国) 3 月消費者物価(前年比)	+0.1%	+0.4%	+0.7%
	3 月生産者物価(前年比)	▲2.8%	▲2.8%	▲2.7%
4/12(金)	(シンガポール) 1-3 月実質 GDP(前年比・速報値)	+2.7%	+2.9%	+2.2%
	(韓国) 金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

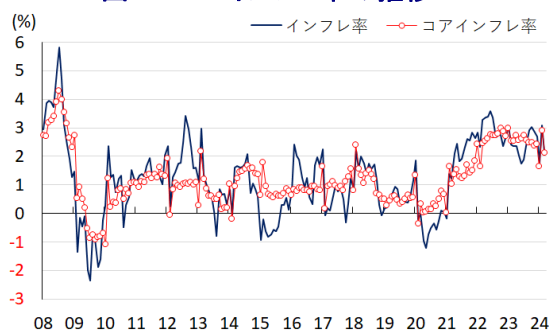
### [台湾]～幅広くインフレ圧力が後退する一方、半導体など電子部品のみならず幅広く輸出は底入れしている～

9日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+2.14%となり、前月(同+3.08%)から伸びが鈍化している。前月比は▲0.66%と前月(同+0.64%)から3ヶ月ぶりの下落に転じており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇傾向が続いている一方、これまで上昇が続いた穀物価格の動きに一服感が出ているほか、生鮮食料品の価格も下落に転じるなど食料品価格の下落ペースは加速するなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。一方、食料品と生鮮食料品を除いたコアインフレ率は前年同月比+2.13%と前月(同+2.89%)から伸びが鈍化しており、前月比も▲0.54%と前月(同+0.79%)から4ヶ月ぶりの下落に転じるなどインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。エネルギー価格に上昇圧力が掛かる動きがみられるにも拘らず関連サービス物価に下押し圧力が掛かっていることを反映して輸送コストが下振れしており、こうした動きを反映して幅広く財価格に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、全般的にインフレ圧力が後退している。

10日に発表された3月の輸出額は前年同月比+18.9%となり、前月(同+1.3%)から伸びが加速している。前月比も+5.3%と前月(同+1.1%)から2ヶ月連続で拡大するなど底入れの動きを強めてい

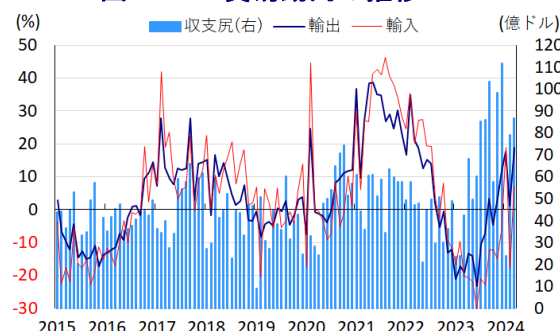
る様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が大幅に底入れの動きを強めているほか、金属関連や化学関連、プラスチック関連など素材・部材関連の輸出も堅調な動きをみせるなど、幅広く輸出が押し上げられている様子がうかがえる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けが堅調に推移しているほか、日本や米国、欧州向けなど先進国向けのみならず、アジア新興国向けも底堅く推移するなど幅広く底入れの動きを強めている。一方の輸入額は前年同月比+7.1%となり、前月（同▲17.8%）から2ヶ月ぶりに前捻を上回る伸びに転じている。前月比は+7.6%と前月（同▲15.2%）に大きく減少した反動で2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが確認されている。輸出の堅調さを反映して素材・部材関連の輸入が幅広く押し上げられていることに加え、昨年末以降の商品市況が底入れの動きを強めていることも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は+86.75億ドルと前月（+78.88億ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移

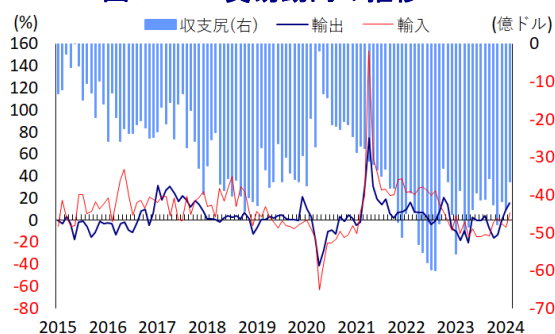


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [フィリピン]～中国向けや ASEAN などアジア新興国向け、米国向けなどで電子部品関連の輸出が底入れ～

11日に発表された2月の輸出額は前年同月比+15.7%となり、前月（同+9.2%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が堅調な動きをみせているほか、農産品や鉱物資源関連の輸出も底堅く推移している。国・地域別でも、日本向けやEU向けに底入れの動きに一服感が出ているものの、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEANなどアジア新興国向け、米国向けの堅調さが輸出全体を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比+7.1%となり、前月（同▲6.1%）から3ヶ月ぶりに前捻を上回る伸びに転じている。前月比は2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出同様に底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して素材・部材関連の輸入が押し上げられていることに加え、商品市況の底入れの動きも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は▲36.48億ドルと前月（▲43.88億ドル）から赤字幅が縮小している。

図3 PH 貿易動向の推移

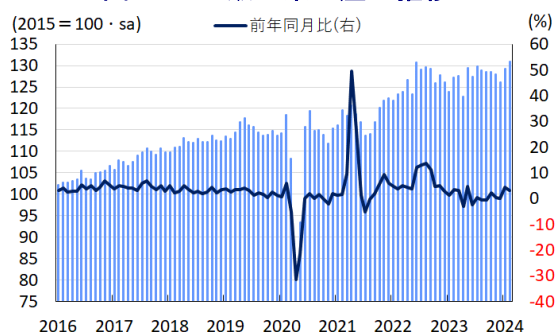


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [マレーシア]～鉱業部門や製造業などで生産は底入れも、業種ごとに跛行色が鮮明になる動きがみられる～

8日に発表された2月の鉱工業生産は前年同月比+3.1%となり、前月(同+4.3%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+1.24%と前月(同+2.55%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、天然ガス関連を中心とする鉱業部門の生産が底入れの動きを強めている様子がうかがえるほか、製造業についてもたばこ関連や木製品関連、石油化学関連、自動車など輸送用機械関連などで堅調な動きが確認される一方、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産は力強さを欠く動きがみられるなど、分野ごとの跛行色が鮮明になっている。他方、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量は底入れの動きを強めており、春節連休の時期のズレも影響する形で幅広く経済活動が活発化している様子がうかがえる。

図4 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。